

氏 名	加藤 真理子	所属
		京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員
研究テーマ	東北タイ農村における高齢女性と仏教 — 高齢社会に向けてのプロローグ — Elderly Women and Buddhism in Rural Northeast Thailand: A Prologue toward the Aged Society	
<b>【派遣先大学・研究機関・研究科名】</b> タイ国コンケン大学人文社会科学学部メコン河流域複合社会研究所 (Center for Research on Plurality in the Mekong Region, Faculty of Humanities and Social Sciences, Khon Kaen University)		
<b>【派遣先都市・国名】</b> タイ国 コンケン県		
<b>【派遣期間】</b> 2009年2月1日 ～ 2月28日		
<b>【派遣先指導教員または受入研究者（主指導教員には*）】</b> *Asst. Prof. Yaowalak Apichatvullop Dr.Maniemai Thongyou		
<b>【主要受講科目名および担当教員名】</b> Asst.Prof.Yaowalak Apichatvullop（Department of Sociology and Anthropology）との個人教授 Dr.Maniemai Thongyou（Department of Sociology and Anthropology）との個人教授		
<b>【エラスムス派遣の研究上の成果】</b> 筆者の研究対象地である東北タイ農村社会は、1960年代以降、インフラの整備、世界市場への参入、開発政策などの影響を受けて急激な社会経済的变化を経験してきた。特に労働移動の増加による生業の変化は、農村社会構造を根底から揺るがしている。1980年代以降、経済発展に伴い出稼ぎが長期化し、子供を母親に預けて都市へ向かう若い夫婦が増えた。農村では高齢者と子供だけの世帯が多くなり、東北タイ農村の「家族 (khropkhrua)」は、今まさに再編されようとしている。確実に進む少子高齢化と社会変容のなかで、村に残された高齢女性に期待される家族内での役割や社会における宗教的役割の変化も推測される。しかし高齢女性の日常生活、近年の社会変容に対する捉え方、新しい変化への対処方法、また老後の生きがいでもある宗教実践に対する影響など、東北タイ農村女性が生きる現在の状況について、現地における研究・調査が進んでいるとはいえない。村落を長期間不在にすることがなく、地元の社会に密接に関わる高齢女性を取り上げることは、東北タイ農村社会の変容や、本プログラムにおける「親密圏」の再編成を捉えるに適していると考えた。 筆者は、長年にわたって東北タイのジェンダーや女性と仏教に関するフィールド調査・研究をタイ語および地方語を自ら使用して行っており、またすでに今回の派遣先機関であるコンケン大学人文社会科学部の研究者とは旧知の仲である。このような研究を通じた交流によ		

って、これから先、タイ東北地方の農村社会の変容過程を長期間にわたり断続的に調査・研究を続けるための共同研究ネットワークの基盤を作ることも視野に入れて、派遣先機関としてタイ国コンケン大学人文社会科学学部メコン河流域複合社会研究所を選んだ。

コンケン大学人文社会科学学部学部長およびメコン河流域複合社会研究所所長を兼任されているヤワラック先生 (Prof. Yaowalak Apichatvullop) は、快く筆者を短期間研究員として受け入れてくださった。筆者が派遣された期間は、平成 21 年 2 月 1 日から 2 月 28 日までである。派遣期間は、期末試験および夏季休暇の始まりに当たり、タイ国コンケン大学では、通常の授業は行われていなかった。そのためヤワラック先生と人文社会科学学部講師マニーマイ先生 (Dr. Maniemai Thongyou) から直接指導を受けた。マニーマイ先生は、東北タイ農村における社会経済的变化を社会学的見地から研究を続け、現在では東北タイ農村の労働移動についての研究を行っている社会学者である。

タイ国に赴いた筆者は、まず図書館や行政諸機関において高齢化についての文献資料の収集を行うとともに、東北タイの一村落において高齢女性にインタビューを行った。調査の前後に、ヤワラック先生らとの場を持ち、調査の予定と進行状況を報告した。そこで筆者は、タイの政情や経済危機の概要、東北タイ農村における移動労働の現状について先生方から新しい知見を得るとともに、調査方法についてのコメントも受けた。

また受け入れ機関であるコンケン大学人文社会科学学部メコン河流域複合社会研究所では、東北タイを含むメコン川流域の複雑な民族や文化を持つ人々の社会が、グローバル化によってどのような影響を受けているのかについて、様々な分野やテーマから研究の蓄積がなされている。筆者の滞在期間中にも、コンケン大学の研究者が東北タイ農村を中心に共同研究を行っているテーマ「東北女性の国際結婚」の報告会が行われ、筆者も許可を得て特別に参加することができた。近年、タイ人女性と外国人男性との結婚の増加が社会現象としてタイのマスコミにも取り上げられ、研究の上でも焦点が当てられつつあるテーマである。そこでは東北タイを舞台にしたタイ人研究者による研究動向についての知見を得るとともに、若手のタイ人研究者とも交流を持つことができた。

特に、東北タイ農村女性と西洋人男性との結婚について調査・研究を行うパチャリン先生 (Patcharin Lapanun) と出会い、お互いの調査村の状況に関する有意義な意見交換ができた。そして東北タイ農村社会は構造的変化の危機に直面していること、農村社会のなかでも女性に着目することの意義などを確認するとともに、家族の変容を様々な角度から行う研究の可能性と重要性について新たな知見を得た。

今後の課題として、コンケン大学の若手研究者との交流を継続させると同時に、東北タイ農村における親密圏と高齢女性の捉え方を、理論的により深く掘り下げる必要があると考える。